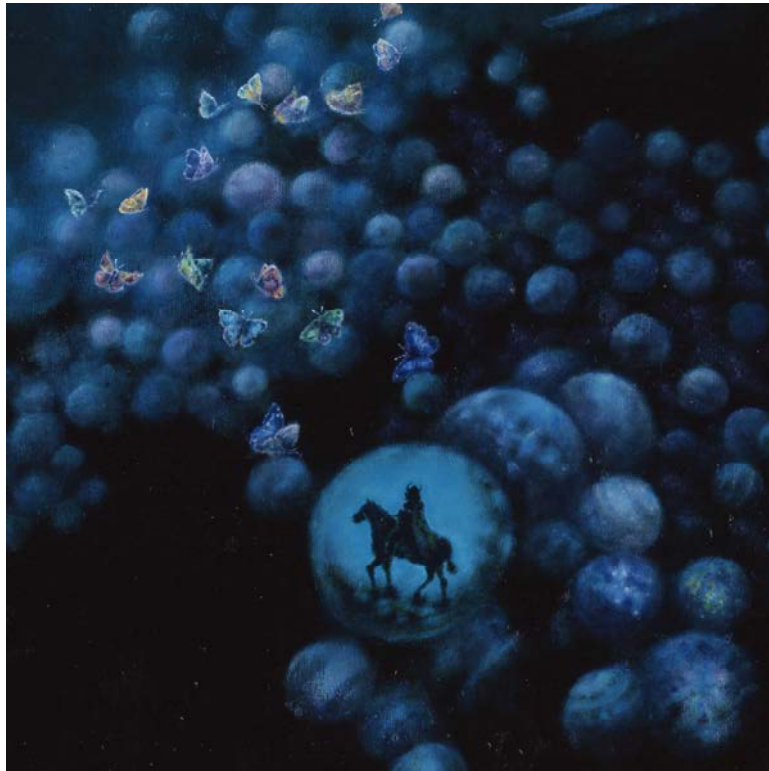


令和元年 12月15日発行 鷹山宇一記念美術館友の会
 〒039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内
 TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



鷹山宇一「古城幻影」1997年(キャンバス・油彩)



「古城幻影」〈部分〉

「中村 哲先生」

少年時代から「蝶」が大好きで「珍しい蝶が見られる」と山岳遠征隊の医師として同行しパキスタンへ。無医村の現地では医師が来たとき夜明け前から人々がテント前に並んだ。その場凌ぎの診療にも涙を流し感謝の手を合わす村人の姿が原点となった、と話す。「同郷の血が流れている」と私の幼な児を抱き上げ「負けない人間になれ」と頭を撫でてくれた。アフガンで診療所を開設した四半世紀前の出来事だった。「生きていれば病は後で治す」と飲料水確保のために井戸を掘り農業用水路を建設する。

白衣を脱ぎ自ら重機を運転した。「現地びと」だけでも維持・管理ができるよう江戸時代に築かれ今も使用されている、ふるさと福岡の「山田堰」をモデルにした取水堰を作り続けた。

現地を視察する各国の高官たちには何重にも護衛が囲む。しかし丸腰のNGOの仲間が殺害されると、若い命を異国で散らした懺悔であろうか、スタッフ全員を故国に帰し贖罪かのように一人現地に残る。「100の診療所より一本の用水路」を持論に、かの地で根を下ろして35年。晩年の「中村哲先生」の姿は強固な信念を貫き通した「古武士」そのものだった。

突然の銃弾に倒れた夜「風に向って立つライオン」を何度も何度も聴きながら画集の「古城幻影」を見続けていた。

人生を決めた大好きな「蝶」に導かれ、執念の孤高の道を黙して歩む「鎧武者・中村哲」。「蝶」の展覧会を終えたばかりで同じ時代を来してきた私には、この崇高な生き方をした人間への哀惜の言葉が、ただ悔しくて見つからない。

館長 鷹山 ひばり

わたしの
おすすめ
美術館

お二人の企画展「Totoの美術館を御紹介」は、
Totoの美術館を御紹介
介原浩一氏だ。

「深川の雪」を訪ねて



”深川の雪”
喜多川 歌麿
岡田美術館HPより

二〇一五年(平成27年)の話になります。前年のNHK「日曜美術館」で紹介された喜多川歌麿の「雪月花」三部作の一つ「深川の雪」が発見され、修復後の作品が箱根、小涌谷の「岡田美術館」に收藏されている情報を得ていたため、時間を見つけて訪ねてみようと考えていました。

その矢先、大涌谷が噴火して箱根の入山規制、肝心の「深川の雪」が常

岡田美術館へは

- 住所 250-0406
神奈川県足柄下郡箱根町
小涌谷493-1
TEL 0460-87-3931
- 開館時間 9:00~17:00(入館30分前)
- 休館日:12月31日、1月1日、展示替期間
- 入館料:一般2,800円(割引制度有り)
- アクセス:
箱根湯本駅から箱根登山バス(H路線)約19分「小涌園」バス停下車すぐ

時展示しない(作品の保護のため)等の情報を得て、どうしようかと考えていたときに箱根の観光客が噴火の影響で激減してその復興のため特別に期間限定で展示する事がわかり、仕事の都合で泊まれないので日帰りで行ってこられるか検索して何とかなるかなと出かけました。

新幹線、登山バスを乗り継いで昼過ぎに到着しました。二〇一三年開業の新しい美術館なので最新の防犯設備セキュリティ対策も空港並みです。まず目的の作品を鑑賞し、あとは5階建ての広い館内をゆっくり時間が許す限り巡りました。たくさん日本美術、東洋美術の作品がテーマごとに展示されていました。

噴火騒ぎのあとなのでしようか入館者も少なく、とても静かな空間。空調設備が万全でいやな音がせず、黒を基調にした展示室で作品に集中できます。



”富嶽三十六景 神奈川沖浪裏”
葛飾 北斎
すみだ北斎美術館HPより

「すみだ北斎美術館」を訪ねて

東京都墨田区の「すみだ北斎美術館」に行ってきました。「江戸東京博物館」や「両国国技館」と同じく「両国」駅から近く徒歩圏内です。平成30年に友の会の研修旅行で長野県小布施町の「北斎館」を鑑賞していましたが、これまでもいくつか

ゆっくり鑑賞したあとは館おすめの足湯でくつろぎます。目の前とても大きな(縦12m横30m)「風神雷神図屏風」を基に描かれた壁画を眺めながら青空のもと午後のティータイムをさせていただきました。

箱根においでの際は是非、小涌谷の「岡田美術館」まで足を伸ばして、ゆっくり温泉にお泊まりになられて鑑賞なさることをおすすめします。

(友の会役員)

すみだ北斎美術館へは

- 住所 130-0014
東京都墨田区亀沢2-7-2
TEL 03-6658-8936
- 開館時間 9:30~17:00(入館30分前)
- 休館日:毎週月曜日(ほかには年末年始等、詳細は年間予定表参照)
- 入館料:常設展~一般400円
企画展~展覧会ごとに設定
- アクセス:
JR総武線・両国駅東口~徒歩9分
地下鉄大江戸線・両国駅~徒歩5分

の美術館で北斎の作品を鑑賞する機会がありました。改めて北斎の地元で作品を鑑賞したいと思っていました。この北斎の生まれた墨田区に平成28年11月に開館した新しい美術館「すみだ北斎美術館」は、私が訪問した今秋に開館3周年を迎え、「北斎没後170年記念・茂木本家美術館の北斎名品展」と題し、北斎の代表的なシリーズとして知られる『富嶽三十六景』、『北斎漫画』全冊、『富嶽百景』をはじめとする錦絵、摺物、版木など多くの北斎作品を鑑賞することができました。また、館内最上階からは東京スカイツリーを眺めることもできました。建物の外壁は、淡い鏡面のアルミパネルで、やわらかく下町の風景が映り込み、周辺地域の風景に溶け込んでいます。

東京にお出かけの際は、「すみだ北斎美術館」鑑賞をお勧めします。

(友の会会員 Y・T)

第19回鷹山賞児童作品展

令和2年
1月19日(日)まで
好評開催中!

青森県内の小中学生に作品を公募する絵画コンテスト「鷹山賞児童作品展」も、今年で19回展となりました。

今年は47団体、個人1名から499点もの力作が寄せられました。9月26日、27日に審査会が行われ、鷹山賞を頂点とする入賞28点、入選96点が選ばれました。

その栄えある入賞を讃えて、11月16日、入賞者授賞式が行われました。入賞・入選となった作品は、1月19日(日)まで展覧しています。併催して「第19回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展」を開催しております。「みんなが暮らす地球」をテーマに世界各国の子どもたちが描いた作品全70点を展示しています。

子どもたちの素直な目と心で描かれた作品は心がほっと温かくなる作品ばかりです。
是非ご家族皆様でご鑑賞ください。

総評

第19回目の審査を終えて感じたことは、第一に出品作品のレベルが大変高くなっていった事。第二に多岐に渡る作品が出品されていた事。第三に児童の域を超えた作品が多数出品されていた事であります。

それは、美術の時間が減る中で、一人一人の個性を大切に育てられた結果だと確信しています。又、日々課題研究に取り組み苦労を重ねられた事と思います。これらの努力に感謝以外の言葉をみいだす事ができません。有りがとうございます。

今回は20回目を迎えます。児童の新たな挑戦を楽しみにしています。今後も一人一人の個性を大切に育てて下さる事をお願い致します。これこそが鷹山児童画展の神髄だと思います。

審査員長 濱田 進



▲鷹山賞 (中学生の部)
「桜並木」古川 ころろ
(青森市立沖館中学校3年)



▲鷹山賞 (小学生の部)
「猫と箱〜かわいいチビ〜」
横島 ほのみ (八戸市立田面木小学校6年)



▲審査会の様子。今回も力作揃いで、審査員の方々は頭を悩ませていました。たくさんのご応募、ありがとうございました。



【地球環境特別賞】

Mahran Maria バーレーン 12歳

第19回地球環境世界 児童画コンテスト優秀作品展

「11月16日(土)入賞者授賞式が行われました。入賞者のみなさんは、緊張しましたが、自分の名前が呼ばれると、「はい！」と大きな声で元気よく返事をしました。受け取った子どもたちの誇らしそうな表情が印象的でした。受賞された皆さん、本当におめでとうございます！」



入賞者授賞式

11 / 16 (土)

11月16

日(土)入

賞者授賞

式が行わ

れました。

入賞者の

みなさん

は、緊張し

た様子で

したが、自分

の名前が呼ば

れると、「はい

！」と大きな

声で元気よく

返事をし

ました。受け

取った子ども

たちの誇らし

そうな表情が

印象的でした

。受賞され

た皆さん、本

当におめでとう

ございます！」

美術鑑賞に来てくれました!

七戸小学校の2年生と4年生の皆さんと七戸城南小学校の2年生、4年生、6年生の皆さんが美術鑑賞に来てくれました。

11/21 (木) 七戸小学校 2年生・4年生

皆さん、お友達同士で作品の感想を言い合いながら、楽しそうに鑑賞していました

～子どもたちの声～

- ★鷹山先生の絵は蝶が本物そっくりに描かれてびっくりした!
- ★鷹山賞児童作品展は上手な絵ばかりで自分も真似したいと思った。



城南小学校の皆さんは、「お気に入りの作品」を探しながら鑑賞していました。

12/3 (火)、6 (金) 七戸城南小学校 2年生・4年生・6年生

～子どもたちの声～

- ★世界の子どもたちの色の使い方がすごく上手だった。
- ★私も画家になりたいと思った。
- ★鷹山賞をとった作品は細かいところまで描かれていて驚いた。



12月8日(日) 遊蝶記



今年も残すところあと僅かとなり、鷹山宇一先生を偲ぶ「遊蝶記」も20回を数えました。

「遊蝶記」という名前は、鷹山先生の代表的作品「遊蝶・花」から「遊蝶」を、「記」は「記憶する」の「記」でいつまでも忘れないという願いを込めて命名されています。

正午過ぎから行われた「遊蝶記」。まずは鷹山先生に想いを馳せながら、Happy Birthdayの歌をみんなで歌い、ロウソクの火を吹き消して、お誕生日をお祝いしました。

参加された皆様には、今年1年の振り返りと新しい年への抱負を用紙に記入していただきました。

終始笑顔に包まれた和やかな会となり、鷹山先生もきつと喜んでくれたのではないかと思います。

来年も皆様にとりまして、良き1年となりますよう、心から祈念しております。



▲最後に全員で記念撮影。雪のちらつく寒い中でしたが、多くの方にご参加いただきました。お集まり頂いた皆さん、ありがとうございました。

▼ご参加頂いた皆さん一人一人に今年一年を振り返ってお話いただきました。



▲全員でHappy Birthdayの歌を歌いました。鷹山先生にも全員の歌声がきっと届いたことでしょう。

令和元年度 鷹山宇一記念美術館
美術館めぐらひ
「ペーパーフラワーで
鷹山作品の再現に挑戦」

10月19日(日)は、「ペーパーフラワーで鷹山作品の再現に挑戦」です。

開館25周年記念の「宇一が描いた蝶展」にあわせたワークショップ1回目です。数ある鷹山作品の中から「早春賦」を再現します。6頭の蝶と真ん中にある赤いバラが印象的な作品です。



はじめに、色とりどりの画用紙で花と蝶をつくります。細かい作業ですが、花びら一つ一つにカーブをつけ、貼り合わせることで立体のバラができあがります。蝶もただ切り抜いただけではなく曲線を付けることで、立体感がうまれます。背景にはクレパスを使います。緑の画用紙に「早春賦」の背景をイメージした色を塗っていき、指で擦って馴染ませます。その上から花と蝶を配置し貼り付けたら完成です。

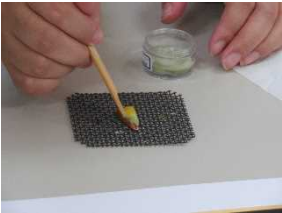
自分だけの「早春賦」が完成しました。



令和元年度 鷹山宇一記念美術館
美術館めぐらひ
「七宝焼きをしよこ」

11月2日(日)は、「七宝焼きしよう」です。

開館25周年記念の「宇一が描いた蝶展」にあわせたワークショップ2回目です。展示している鷹山先生が集めていた無数のプローチを羽を広げた蝶でした。そこで「羽を広げた蝶」の프로ーチを選択しました。今回は蝶の羽の模様を表現するためフリットの中でもミルフィオリという金太郎飴の様なガラスを使用します。透明度を出すため、ミルフィオリも釉薬(ガラスの粉)も透明釉薬のみ使用します。釉薬をのせ、その上からミルフィオリを配置し、焼成します。今にも飛んでいきそうなきれいな蝶が焼き上がりました。



令和元年度 鷹山宇一記念美術館
美術館めぐらひ
「木版画で
年賀状をつくろう」

★年賀状木版画教室【2日目】★

11月30日(土)は「年賀状木版画教室」の1日目です。今年も藤谷芳雄先生に「彫り進み木版画」を教えていただきます。



来年の干支は「ねずみ」です。藤谷先生より「彫り進み木版画」の説明を受けた後、版木の裏で、彫りの練習です。それが終わったら下絵の確認。白くする部分と色を決めます。次はいよいよ版木に下絵を写して、さあ彫りはじめ!! 軽快な音が工房に響き渡ります。



2日目の完成が待ち遠しいです。



「彫り進み木版画」ってなあに?

一版多色木版とは違い、少し彫っては刷り、また彫っては刷るといように、一枚の版木で彫り進めながら、刷りを行う版画です。



★年賀状木版画教室【2日目】★

12月7日(土)は「年賀状木版画教室」の2日目です。今日は仕上げの日です。彫



つては刷り刷っては彫り。版木を掘る音とローラーを転がす音、そして先生のユニークな口調に、みんな大笑い。たのしい時間を過ごしました。今回は時間内に終わることが出来ず、居残りです。

最後まで諦めず年賀状を完成させて帰りました。皆さん本当にお疲れさまでした。そして藤谷先生、いつも楽しい教室をありがとうございます。



今年も日本板画院の年賀状版画コンクールに応募します!!



さあ、誰に年賀状をだすのかな??



みなさま
よいお年を
お迎え下さい。

美術館日誌

10月

- ▼ 2日(水) 青森放送(株) 社長訪問 (館長)
- ▼ 5日(土) 友の会会報・25周年記念図録発送 (館長)
- ▼ 6日(日) 七彩会
- ▼ 7日(月) 青山浄晃先生を偲ぶ会出席 (館長)
- ▼ 8日(火) 11日(金) 職場体験(三本木高校 附属中学校生1名) 全国健康保険協会管掌 保険年金報酬調査 (成田/中央公民館)
- ▼ 9日(水) 友の会役員会 (株)タミヤ御礼訪問 (館長/静岡)
- ▼ 12日(土) 蝶展ギャラリートーク (対馬康夫/日本鱗翅学会員 ワークショップ 「ペーパーフラワー」)
- ▼ 16日(水) 鷹山賞看板取付 (青森スタジオ)
- ▼ 19日(土) 蝶展ギャラリートーク (対馬康夫/日本鱗翅学会員 ワークショップ 「ペーパーフラワー」)
- ▼ 20日(日) 七彩会
- ▼ 22日(火) 天皇陛下即位の礼 (入館料無料)
- ▼ 24日(木) 消防通報訓練 職員健康診断 (十和田市)



▲鷹山作品を立体的に表現しました。(織川)

- ▼ 26日(土) JRウオーキングツアー
- ▼ 27日(日) 東北文化の日(入館料無料)

11月

- ▼ 2日(土) ワークショップ 「七宝焼」 (織川)
- ▼ 6日(水) 蝶展看板撤去 鷹山賞看板取付 (青森スタジオ)
- ▼ 8日(金) 七戸中学校一学年職業講話 (遠藤)
- ▼ 13日(水) 第19回JQA地球環境コンテスト優秀作品展示 (青森スタジオ)
- ▼ 16日(土) 第19回鷹山賞児童作品展 授賞式開催



▲今回の25周年展に因んで「蝶」のブローチを作ってみました



▲鷹山賞を授賞されたお二人
右：古川こころさん(中学生の部)
左：横島ほのみさん(小学生の部)

- ▼ 17日(日) 七彩会
- ▼ 21日(木) 七戸小学校2、4年生 美術鑑賞



▲真剣に耳を傾けて、メモをとります。

12月

- ▼ 3日(火) 城南小学校2年生見学
- ▼ 5日(水) 消防施設点検(昭和電気)
- ▼ 6日(金) 城南小学校4・6年生 美術鑑賞
- ▼ 22日(金) 青森県私立学校審議会出席 (館長/青森)
- ▼ 30日(土) ワークショップ 「版画で年賀状を作る①」 講師：藤谷 芳雄氏



- ▼ 7日(土) ワークショップ 「版画で年賀状を作る②」 講師：藤谷 芳雄氏



- ▼ 8日(日) 遊蝶記



▲第20回遊蝶記

- ▼ 9日(月) 10日(火) 全国美術館会議 (遠藤・織川/気仙沼)
- ▼ 14日(土) 理事会
- ▼ 15日(日) 七彩会
- ▼ 18日(水) 県教委公益財団立入検査
- ▼ 21日(土) 会報発送
- ▼ 25日(水) 上北地方図工部会 (織川/三沢)
- ▼ 29日(日) 31日(火) 年末休館

野外彫刻を訪ねて Part I
彫刻家・鈴木正治編

八戸市 照井壽一

鷹山宇一記念美術館友の会会報第82号(2016年3月発行)から第86号(2017年3月発行)まで、「彫刻家鈴木正治の作品を訪ねて」と題して連続5回にわたって十和田市 小川展子さんが執筆された記事に触発されてから、岩手町、三沢市、七戸町、青森市を訪れ鈴木正治氏の作品を楽しんでいます。

最初の訪問は、2017年6月、岩手県内で初めて野外彫刻美術館として1993年に開館した岩手町立・石神の丘美術館でした。
美術館歩行者入口左側に設置されている石彫「ちきゅうの子」(制作 鈴木



石神の丘美術館 南の広場外観
右上屋内展示場、左手奥「ちきゅうの子」



「ちきゅうの子」(1993～94年)
制作 鈴木正治 石岡豊美

木正治(石岡豊美)、岩手町彫刻公園に設置されている「二つのわ(友を呼ぶ)」を鑑賞しました。
特に2年がかりで完成させたという、高さ230センチメートル、幅420センチメートル、奥行340センチメートルの黒御影石を三方向から三角、四角、丸形の穴を掘り進め中央の円形ホールでドッキングさせたという「ちきゅうの子」に触れたとき、素材の存在感は勿論ですが、石を削るのではなく、中をくり貫いて制作した彫刻を見たのは初めてだったのでそのユニークな発想に驚きました。

本年10月12日には、一個の御影石の上部に「八甲田山」、裏側に「レディ・ゴディバ」伝説に基づくという馬にまたがる裸婦「ゴディバ」が線描で彫り込まれた作品を観るために青森市合子沢の青森公立大学付帯施設「国際芸術センター青森」(2001年創設)を訪問、帰りは、七戸町の龍泉山・青岩寺に参拝、境内の「ウゴカズ」、「地藏」、「狛犬」などの作品を鑑賞しました。
それから4日後の10月16日には、青

森市リンクモア平安閣市民ホールで開催中の鈴木正治氏(1919～2008年)の生誕100年を記念した「飄々と飄々と生誕100年」展を訪れ「誕生」等の作品とビデオをゆっくりと鑑賞することが出来ました。

当日は、快晴でしたので「鈴木正治 作品を訪ねる旅」をガイドブックに青森市内を散策、駅前の新町商店街入口の看板上部の「りんご樹デザイン」に

森市リンクモア平安閣市民ホールで開催中の鈴木正治氏(1919～2008年)の生誕100年を記念した「飄々と飄々と生誕100年」展を訪れ「誕生」等の作品とビデオをゆっくりと鑑賞することが出来ました。



裏側 「ゴディバ」 2002年



上部 八甲田山 2002年

始まり、青い森公園の「思い出の像」、「道路標石」などの作品を楽しみながら、青森県立郷土館へ向かいました。郷土館で展示中の作品を鑑賞、残存部数が少なくなっていた「鈴木正治 作品選」を購入後、善知鳥神社に参拝、石彫「カメ」を鑑賞しました。
鈴木正治作品全体のごく一部を観ただけですが、どの作品も、ユーモアがあり、制作者の手の温もりが感じられ、観る人の心を癒やしてくる優しいさに満ちあふれていると感じました。



図録等によれば、鈴木氏のモチーフの一つ「ゴディバ」は、水墨画や木彫作品もあるようなので機会を得て観たいと思います。

参考資料

- 「鈴木正治の軌跡」～津軽が生んだ魂の造形 工藤正義 草雪舎 平成26(2014)年11月
- 「鈴木正治作品を訪ねる旅」～岩手から青森へ～ 東京ギャラリー・美的野玲子 小出規子 小川展子(七戸青岩寺) 平成27(2015)年1月
- 寄贈記念 齊藤葵和子コレクション「鈴木正治 作品選」 青森県立郷土館 平成27(2015)年3月

野外彫刻を訪ねて Part II
大阪市御堂筋彫刻ストリート編

八戸市 照井壽一

芸術の秋も深まった11月初旬、大阪市「御堂筋彫刻ストリート」を訪ねることが出来ました。

御堂筋彫刻ストリートは、大阪市が御堂筋を市民や国内外からの来訪者に親しまれるアメニティ豊かな芸術・文化軸として整備を進めているメインストリートで世界一流の彫刻家の作品が設置され、彫刻作品は「人間賛歌」をテーマとし、「人体」をモチーフにしているそうです。

最初に設置された一体は、オーギュスト・ロダンの「イヴ」で、平成4(1992)年8月、以来、現在まで、御堂筋には29体の作品が設置されているそうです。

事前に大阪市のホームページから入手した「御堂筋彫刻ルームページ」を案内役に「みどりのリズム」(平成6年設置)を鑑賞。リーフレットの講評によれば「...近代日本彫刻が重要視しなかった構造的彫刻の代表作として高く評価されている。」そうです。作品は道路の両側に設置されているため右に左に横断しながら、イルミネーションが点滅し始めるころ「みちのく」(平成6年設置)を訪ねました。



「みどりのリズム」
作家 清水多嘉示



「みちのく」 作家 高村光太郎
(十和田湖畔「乙女の像」は昭和28年設置)



「道東の四季-春」
作家 船越保武

講評には「...十和田湖の自然の偉大さ、深遠さを表現した彫刻：こと書かれていました。」
二段目左の写真は「道東の四季-春」(平成5年設置)、講評に「...実際に鉋路に設置されている像は、薄衣をまとっているが、この作品は裸体である。...と書いてあったので、思わず見直してしまいました。」
大阪市中心部を南北に貫く延長約4km、幅約44m、日本の道百選に選定されている御堂筋の野外彫刻訪問は、令和元年の思い出に残る素敵な旅行になりました。

参考資料
大阪市ホームページ・その他

新規会員入会お誘いのお願いと
友の会会員登録更新のお願い

平成31年・令和元年も会員の皆様には、友の会運営に多大なご理解とご協力をいただき、誠に有り難う御座います。新しい年も友の会では、鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様に喜んでいただける研修旅行、講演会等を企画し、微力ながら地域文化の発展に寄与していく所存でございます。

なお、更新及び新規入会手続きは、美術館窓口と同封の郵便振替により随時行っております。

○友の会の事業内容

- ①県内外美術館研修視察旅行(年2〜3回)
- ②海外美術館研修旅行
- ③美術館作品購入基金への協力
- ④鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤会報の発行
- ⑥その他(美術講演会の開催等)

○一般会員

年会費 3千円
特典 ①無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引

○特別会員

(個人・法人) 年会費 1万円
特典 ①会員証提示により個人・法人会員と同等の特典
②ミニシアターグッズ1割引
③研修会、講演会への招待、優待
④他美術館等の視察研修への優待参加
⑤会報の配布

○賛助会員

年会費 2万円
特典 ①会員証提示により個人・法人会員と同等の特典に加えて

- ①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで無料入館
②新規加入の方に画集1冊贈呈
③特別企画展の都度、招待券を贈呈
- ◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

◎お便り募集中

文字数:1,200字程度, 募集締切:令和2年8月末日
鷹山宇一記念美術館友の会会報100号へのお便りを
お待ちしております。

編集後記
本年も友の会会員各位より、研修旅行記等の投稿を頂き感謝申し上げます。
来たる令和二年「子年」が素晴らしい一年となりますようお祈り申し上げます。
(照井壽一)